



国労東京支部

2023年5月3日

第42号

国鉄労働組合東京支部機関紙

発行責任者 松田 恭明

編集責任者 佐藤 賢一

二度と過ちを犯さない 反戦・平和の闘いを！

第1回平成採用者交流会開催

東京支部は4月22日、第1回目の「平成採用者学習交流会」を開催した。この名称としては初めてだが、以前開催した「次世代交流会」を引き継いだものである。コロナ禍によって、企画しても中止を余儀なくされてきた交流会だが、感染対策をしっかりとりながら開催した。第1部は東京都復興記念館で震災と戦災をまなび、第2部は隅田川で2時間にわたって屋形船で交流を深めた。総勢29人が結集し、それぞれが思いを語ってきた。

復興記念館では、写真や展示物を見ながらガイドさんが説明し、関東大震災時の東京の悲惨な状況を見学した。また、第二次世界大戦時、B29爆撃機からの焼夷弾の投下によって焼け野原となった東京の街のパネルなどを見て、「戦争の凄惨さ、残酷さ」を感じた。そして二度とこのような過ちを犯さないために自分たちに何ができるのか、を改めて考えさせられた。



ガイドさんの説明を熱心に聞き入る



東組織部長



松田委員長

場所を隅田川に移動して屋形船に乗り込んだ。東組織部長の司会で交流会が始まり、冒頭松田委員長は「二度と戦争をしない国にするため、歴史を学ぶ必要がある。今日は若い仲間が多いので、普段思っていることを語り合ってほしい」と挨拶した。

しばし歓談したのち、ビンゴゲームを始めたのだが、リーチはかかるもののなかなかビンゴになる仲間が現れず、用意した景品も余ってしまったようだ。（下船までになくならず、皆さんに持ち帰ってもらった）

ビンゴした仲間からひと言ずつもらい、鈴木書記長から「また、夏以降に別の企画をしたい」との言葉も飛び出すなど交流会は成功裡に終わった。

参加者の声

- 東京にいるのもあと数カ月。賃金をもっと上げてもらいたい。
- 新幹線通勤している。モニター制度がなくなり、定期券を購入しているが、総支給額が100万円を超えてしまい税金で持っていける分が多い。
- 祖母が震災を体験しているので感慨深かった。



隅田川前で集合写真

- JESSの団交に出てみた。当初は団交なんて意味ないと思っていたが、自分が出席してみて、健康診断の交通費支給や家族手当の5,000円増額など改善につながった。国労という組織はいいな、と改めて思った。
- これ以上労働条件が悪くならないように頑張りたい。
- 車両所で働いているが、部品が届いても組み立てる道具がない。会社は、道具もないのに来週中に組み立てろと言ってくる。本当に頭にくる。
- JESSプロパーの方と交流できてよかった。青年部もバーベキュー交流など含め、絆を深めていきたい。



屋形船ではビンゴゲームなど、交流を深めあった

感慨深い日比谷野音

国労は今年も中心に

5月1日、日比谷野外音楽堂にて第94回日比谷メーデーが開催された。東京支部からは退職者組合の仲間も含めて100人を超える仲間が結集した。

「野音」の愛称で親しまれて100年、老朽化により来年度から建て替え工事が始まる。国労もこの会場にはずいぶんお世話になった。現在の野音では最後のメーデーになると思うが、今年も国労の旗が中央にたなびいた。

霞門から土橋までいつものコースを、「コロナ解雇を許すな」「8時間働けば暮らせる社会を」「契約社員への格差を是正しろ」と訴えながらデモ行進した。



編集後記

昔に比べるとずいぶん参加者が少なくなったな、との感も否めないメーデーだったが、退職者組合員の参加者が多かったことに驚いた。福島県いわき市から参加したOBの元気な顔を見て、少しホッとした。最近では集会や会議を企画してもなかなか人が集まらない。国労の若い仲間も同じような悩みを抱えている。

しかし、退職者組合員はなぜか集まる。それは昔の仲間に出会いたい、との思いもあるだろうが、「昔取った杵柄」も大きいのではないかな。

私も頑張ってもあと5年。あきらめずに仲間への声かけ、点検を続けていきたい。しかし時々悪魔が耳元で囁く「もう頑張らなくてよいのでは」と。60歳を超えると正直言って気力も体力もなくなってくる。

退職者組合でがんばっている皆さんに改めて敬意を表したい。(k)